

自分の思いを伝え合うことのできる児童の育成

—「話すこと・聞くこと」の指導を通して—

豊見城村立上田小学校教諭 與世田 典 子

内容要約

児童が「話すこと・聞くこと」に意欲を持って取り組むようにするため、話題を身近なことに求め、言語活動例を生かした効果的な指導をするために学習の場を設定した。

その結果、人と人とのかかわりを通して、自分の思いを伝えるための話し方や聞き方が高まってきた。

【キーワード】 身近な素材 話すこと・聞くこと 人とのかかわり

目 次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究仮説	41
III	研究内容	42
1	中学年の「話すこと・聞くこと」について	42
2	題材の選定について	42
3	言語活動例を生かして	42
4	「話すこと・聞くこと」についての児童の実態	43
5	「話すこと・聞くこと」の年間計画	44
6	指導過程と指導内容	45
IV	授業実践	46
1	単元名	46
2	単元設定の理由	46
3	単元目標	46
4	指導計画	47
5	本時の指導計画	48
6	授業の考察	49
V	研究の成果と今後の課題	50

自分の思いを伝え合うことのできる児童の育成

—「話すこと・聞くこと」の指導を通して—

豊見城村立上田小学校教諭 與世田 典 子

I テーマ設定の理由

国語科の改訂の基本的な考え方として、「適切に表現する能力」「正確に理解する能力」の育成を基盤に、互いの立場や考えを尊重しながら言語で伝え合う能力の育成を重視して、「伝え合う力を高める」ことを位置づけている。この「伝え合う力」とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したりする力でもあると強調されている。「いい話は、いい聞き手を育て、いい聞き手は、いい話をもたらす」ということばがあるように、「話すこと」「聞くこと」は切り離すことのできない能力で、それぞれを磨き合い、高め合うことが必要不可欠となる。つまり、相手や目的、場面に応じて自らの思いや考えを生き生きと話し、それを真剣に聞き合うという学習の展開が必要となってくる。

中学年ともなると学校生活にも慣れ、行動の範囲が広がり、ものの見方考え方も多様になりことばにも膨らみをみせ始めている。その中で、1日のさまざまな活動を単語で話す児童、言いたいことが相手に正しく伝わらない児童が学級に何人もいる。話の順序を考え表情豊かに話す児童、恥ずかしさや自分の話を受け入れてもらえるかを心配して考えをしまい込む児童等、「話すこと、聞くこと」についての個人差は大きい。これまでの指導が、自分の思いや考えを整理して話したり、相手の話に耳を傾け聞き取ったり、お互いの立場を尊重しながら話し合ったりする力を育てることが十分でなかったためだと考えられる。また、教師が知識や技能を一方向的に教え込み、児童がじっくり考えを温めたり、伝えたりする場の設定や時間の保障を十分にしなかった。「今日のテーマについては発表したいな」というつぶやきがあっても対応できず、意欲を阻害していったのである。「話せてよかった。」「もっと伝えたい。」という児童の思いを実現させるためにも、「話すこと・聞くこと」の指導方法を工夫しなければならない。

「話すこと・聞くこと」の指導は、他教科、他領域の指導との関連を図りながら、その効果を上げなければならないが、本研究は国語科の中で「話すこと・聞くこと」についての指導のねらいや意図を明確にしていきたい。そのためには、児童の実態を把握し、児童一人一人が主体的に話すことの活動をしていけるような題材の選定・言語活動例を生かし工夫することによって児童一人一人の力を伸ばしていくことを努めていきたい。

聞き手を意識して話をすることができるようになってくるこの時期に、伝えたい事柄を筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで、相手に分りやすく話そうとする態度や技能を育成する指導過程の工夫をしていきたいと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

「話すこと、聞くこと」の学習活動において、児童が話すことに意欲を持って取り組めるような題材の選定及び言語活動例を生かした効果的な指導をすれば、伝えたい事柄の内容を整理し相手に分かりやすく話そうとする技能や態度を育てることができるであろう。

Ⅲ 研究内容

1 中学年の「話すこと・聞くこと」について

学習指導要領に示されている、「話すこと・聞くこと」については、互いの立場や考えを尊重しながら言語で伝え合う能力の育成を重視し、「伝え合う力を高める」ことをねらいとして位置づけている。そのために、中学年の①目標

- | |
|---|
| (1) 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。 |
|---|

をうけ②内容

- | |
|--|
| (1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。
ア 伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 (話すことの指導事項)
イ 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること。 (聞くことの指導事項)
ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと。 (話し合う事の指導事項) |
|--|

③言語活動

3 内容の取扱い

- | |
|--|
| (1) 内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」に示す事項の指導は、例えば次のような言語活動を通して指導するものとする。 |
|--|

「A話すこと・聞くこと」

身近な話題についてスピーチすること、要点などをメモに取りながら聞くこと、身近な出来事や調べた事柄について説明したり報告したりすることなど

の指導を通して、児童により確かな力の定着を図る。

2 題材の選定について

児童が意欲的に話したり、聞いたりするためには日常生活の中に話題をみつけ、児童の思いや願いが大切にされるような題材の選定をするように努める。

- ・ 児童が話したい、聞きたい、話し合いたいという意欲を喚起し持続できる題材
- ・ 相手や目的意識をもち、話し方・聞き方の方法を工夫して話したり、聞いたりできる題材
- ・ 学習活動を振り返り、次の学習を楽しみにできる題材

のようにまとめ、双方向に働きかける学習活動の場を設定する。

3 言語活動例を生かして

指導内容と言語活動との密接な関連を図り学習効果を上げるために言語活動例が示されている。言語活動例を学習の場で適切に具体化し、指導を十分に行うことで「話すこと・聞くこと」の力を育てる。

(1) 身近なことについてスピーチすること

身近な出来事に話題を見つけ「伝えたい」「分かってもらいたい」という思いや願いが、よりよく伝えられるための話し方ができるようにする。これまでの「話す」ことを振り返り、人と人とのかわりを大切にしながら話す力を高めるために次のことを重点に指導する。

- ・ 話の中心を決め、内容を整えることができる。
- ・ 相手や目的に応じて、丁寧な言葉を選ぶことができる。
- ・ 適切な声の大きさや速さなどに気を付けて話すことができる。
- ・ 相手の気持ちを考えながら聞くことができる。
- ・ 伝えたいことは何か考えながら聞くことができる。
- ・ 感想や意見を持ちながら聞くことができる。
- ・ 要点を聞き取ってメモすることができる。

「自分の考えをもち」目的や場面などに応じて適切に表現するためには、相手の反応を確かめながら話すことである。聞き手が話の内容を引き出してあげるといふ、双方向の働きかけが重要である。

児童一人一人が、みんなの前で表情豊かに話せるような手立てを位置づけていく。

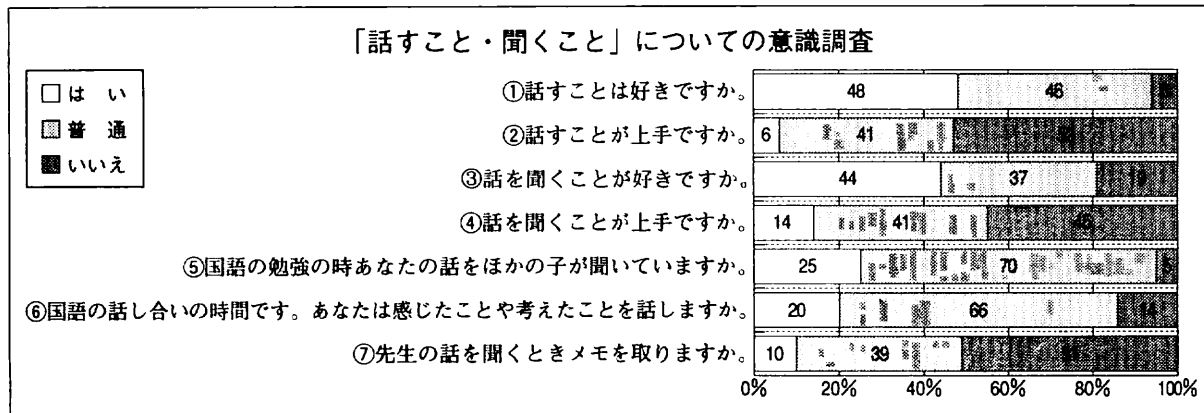
4 「話すこと・聞くこと」についての児童の実態

(1) 「話すこと・聞くこと」の意識についてアンケートを行った。

実施日 平成12年 11月16日(木)

対 象 4年3組 36名

【結果】



【考察】

①「話す」ことについて

「話すことが好きですか。」の問いに48%が好きと答えていることから、児童は話したいという思いを持っていることがうかがえる。

ところが「話すことは上手ですか。」となると「いいえ」が53%と答えていることから話し方の指導が必要となってくることが分かる。児童にそれぞれ理由を尋ねてみると「間違えるのがいやだから。」「何を話せばいいかわからない。」「上手に話せない。」を挙げている。

このことから、話の題材探しや話の内容の整理の仕方、さらに、何でも話せる学級の雰囲気作りの見直しをしなければならない。

②「聞く」ことについて

「話を聞くことが好きですか。」の問いに44%が好きと答え、話すことと比べてみるとほぼ同じくらい聞くことも好きであることから、児童は話すことと聞くことに対して関心があることが分かる。しかし、「聞くことは上手ですか。」の問いになると45%が「いいえ」と答えている。「あなたの話をほかの子が聞いていますか。」の問いに70%が「普通」と答えている。「普通」ということは聞き方に曖昧さがあると考え。聞き取りの実態調査をしても正確に聞き取る児童は、36人中8人と数値が低く、話を聞く構えが不十分であり、聞き所を押さえた聞き方になっていないということが分かる。従って、話の要点や中心は何かを考えながら聞く指導が必要となる。聞き手と話し手との間に心の通じ合いがあれば、相手のことを理解するための正確な聞き取りをすることになる。

「話すこと・聞くこと」の活動を通して、話を正しく聞こうとする態度、伝えたいことが相手に届けられるような力を身につけさせる指導を取り進めなければならない。

③メモについて

メモを取らない児童が51%と半数を占めている。これまでの学習でも、黒板に書かれたものを書き写したり、作文で取材をしてきたり、用事を忘れないためにいろいろな場面でメモを取らせてきた。しかし、児童は早く、短く、自分が読める字で書けばよいのである。どんなメモが大事なのか、また、どのようにしていけばよいのかを児童が身につけていくための手立てを学習の中に位置づけなければならないと考える。

以上のような課題を解決するために、朝の会や帰りの会で取り行われている1分間スピーチを帯单元にして意図的、計画的に繰り返し指導することで、「話すこと・聞くこと」の能力が高められていくものだと考える。

5 「話すこと・聞くこと」の年間指導計画

話す力・聞く力を身につけさせるために意図的、計画的な指導を行うため年間指導計画に位置づけ指導展開をすることは大切である。

「話すこと・聞くこと」の年間指導計画案 (30時間)

学年	月	単元・題材	時間	目 標	主な学習内容	言語事項
4	4	ショートスピーチのしかた	1	身近な出来事について話したり聞いたりする方法について理解できる。	日常的に行う朝の1分間スピーチの話題、話し方聞き方などについて話し合う。	話し方の方向づけ。
	帯単元「1分間スピーチ」 年間を通して適宜行い、短時間の積み上げで話す力・聞く力の基礎を養う。(1分×40人×3回)					
	5	さいころトーキング	1	テーマに沿って話の内容を考えながら話すことができる。	・身近な事柄から、テーマに沿って話の内容を考える。 ・話の内容に質問をする。	対話型 楽しく話す意欲づけ。
	6	メモを取りながら聞く 電話で約束	4	・話の要点や中心点をメモを取りながら正確に聞き取ることができる。 ・よく聞き取れなかったことや分らないことは聞き返し、話の内容を正確にメモにまとめることができる。	・メモをもとに聞くことと、分らないことは聞くことの大切さについて教材文をもとに話し合う。 ・伝言ゲームをメモを取りながら聞いたりメモをもとに話したりする。	発表型 正確に聞き取るための意識づけ。 ・要点などをメモに取りながら聞くこと。 ・相手や目的に応じて、丁寧な言葉を選ぶ。
	9	えんぴつで話そう	1	・話題からずれないように話すことができる。	一つのテーマに沿って自分の思いを伝える。	対話型 ・話の中心を決め、内容を整えること。
	10	話したいことの中心が伝わるように話そう 「ニュースの時間」です	4	・話す速さや間の取り方を工夫して、話したいことの中心がみんなに分るように話すことができる。 ・二人一組で、事実と感想・意見を話す分担を決め自分の考えをはっきりと話すことができる。	・最近の出来事の中から話題を選んで、二人か三人の組で話す。	発表型 選んだニュースの話の中心が何かははっきり意識づける。 ・身近な出来事や調べた事柄について説明したり報告したりすること。
	11	筋道立てて話そう 伝えよう自分の思い	5	話の中心を明確にし、筋道立てて話すことができる。	・おもしろかったところや感動したところを中心に友達に伝えるように話す。	発表型 ・身近な話題についてスピーチすること。 ・要点を聞き取ってメモすること。
	12	資料を使って発表しよう	6	・調べた事を効果的に伝えることができるようにする。	・生活の中で役に立っているものを探す。 ・対象の特徴を分りやすく発表する。 ・感想を交流し、考えの違いについて話し合う。	発表型 グラフ・新聞・事典など様々な図書資料の活用。 ・身近な出来事や調べた事柄について説明したり報告したりすること
	1	考えを出し合って、話し合おう 学級紹介	5	・理由を明確にして話すことができる。	・紹介内容を話し合いで決める。 ・発表メモをもとにグループの発表練習をする。	報告型 ・感想や意見をもちながら聞く。

帯単元年間計画案

一人一人のスピーチを確保し、継続的な学習するために帯単元が必要になってくる。

児童の集中心力から考えても、1単位時間を10分～15分ずつの2～3回に分けて効果的な指導をする。

練習と応用の場を設定し、学習が繰り返行われることで「話すこと・聞くこと」の能力を高める。

月	指導内容	月	指導内容
4	読み聞かせ	10	中心となる部分が詳しく分かるように工夫
5	順序よく話そう(5W1H)	11	でだし、会話、たとえを入れて
6	思ったこと、考えたことを入れよう	12	いろ、におい、感触を表す言葉を使って
7	中心をはっきりさせて話そう	1	報告、説明をしよう
9	題名を工夫しよう	2	感想を伝え合おう

6 指導課程と指導内容

効果的に学習を進めていくためには、基礎的な力を育てておくことは大切であり、日常的に働きかけておくことは必要である。

指導事項	学 習 内 容	言語活動例	児童の実態（課題）	支 援（留意事項）
スピーチの仕方について	・話題、話し方・聞き方について話し合う。			
・話し方について話し合う	・これまで学習してきたことの確認する。 ・「夢」の題で作文を書き自分の話し方を録音する。 ・録音したテープを聞いて自分の話し方を振り返り課題を持つ。	・適切な声の大きさや速さなどに気を付けて話す。	◆話すことに抵抗のある児童がいる。 ◆声量、速さ、間の取り方を意識しない。	・話したがない児童には強要しない。 ・音読の学習をしたことを振り返り、伝えたい事がよく伝わる話し方はどうしたらいいか話し合い意識して「話す」ことをさせる。
・聞き方について話し合う	・これまで学習してきたことの確認する。 ・話を最後まで聞いて、分からないことは、質問したり確かめたりする。	・相手の気持ちを考えながら聞く。 ・要点を聞き取ってメモすること。	◆指示されたことを何度も聞き返しに来る児童が多い。	・話形を手引きにして質問したり、確認したりすることに慣れさせる。
・話の組み立てを考える ・発表原稿を書く。	・学校生活の中から、家族の人に話したいことを組み立てる。（ありがとう集会） ・「家族紹介」「身近な出来事から」の2つのテーマから1つ選びスピーチ原稿を書く。 ・2回目の録音をする。 ・課題をもつ。	・話の中心を決め、内容を整えること。 ・相手や目的に応じて、丁寧な言葉を選ぶ。	◆自分が関わった行事だがワークシートの問いに沿って記入できない児童がいる。 ◆話の内容がまとめられない児童がいる。	・1対1の対話指導 ・話の順序を考え、話を把握するために発表原稿を書く。スピーチメモ作りへつなげる。 ・付箋紙に話したいことを箇条書きさせ、話の組み立てを付箋紙を移動させることでまとめさせる。
・聞き取りの練習 ・メモを取る練習をする	・国語の「手と心で読む」の関連した新聞記事の聞き取りをする。 ・話を聞きながらメモを取る。 ・アドバイスカードを利用して要点などをメモする。	・伝えたいことは何か考えながら聞く。 ・要点を聞き取ってメモする。	◆ワークシートの問いに沿っての書き込みだが、聞きながら書くのは大半の児童ができない。 ◆新聞記事から話の内容を正確に聞き取れる児童が少ない。	・区切りごとに書かせる時間を保障する。 ・大事なことだけ書く、心に残った事をまとめる。 ・感想交流のための、要点や感想を書き残すためのメモを取ることにつなげる。
・資料や掲示物の作成	・話し方、聞き方を児童と作成し掲示する。			・児童の分かりやすい言葉に置き換える。
・サイコロトーク	・サイコロの目の代わりに話すテーマを決めていて、サイコロを転がしてでた話の内容を話す。ゲーム感覚なのであまり抵抗を感じないようである。テーマは児童と相談し、児童も話の内容を1～2題準備しておく。 ・聞き手を引きつける話し方や題材探し、学級のコミュニケーションづくりに効果がある。			

IV 授業実践

1 単元名 伝えよう自分の思い

2 単元設定の理由

(1) 題材観

これまで児童は、低学年において、その日の休み時間のことや前の時間に学習した事などを、身近な人々に確かに伝えることができる喜びや楽しさを身につけてきた。第3学年においては、「話の要点が分かるように、区切りを考えて話すこと。」をはじめ、なか、おわりと事柄のまとまりを意識させて話したり、友達の話の内容を受け話すことを身につけてきた。また、「分からないことは聞き返して話の内容を正確に聞き取ること。」「その場の状況に応じて適切な声の大きさや速さを考えて話すこと。」では、話の内容がよく聞き取れなかったりよく理解できなかったりしたことについては、聞き返し正確に聞き取るという学習を適切な声の大きさや速さを考えることと合わせて習得してきている。

第4学年は、自分が伝えたい事柄を聞き手に分りやすく伝えたり、話し手の思いを正確に聞き取ったりする能力をこれまで学習してきたことと重ねながら、自分の思いが効果的に伝わるような工夫を考えさせることをねらいとしている。

本題材では、身近な生活のなかから印象深い出来事や学級内での改善したい事柄を選び、伝える相手や目的を明確にした話す活動を通して、「筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞く。」態度を育てたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、友達同士との話は次から次へと話題がとぎれることなく楽しそうである。

話を聞いている側もあいづちを打ったり、分らないところは聞き返したりと表情も豊かであるが、全体の前では、話し手が恥ずかしがったり、話の内容が伝わらなかったり、聞き手も大切な事を聞き落としたりと児童の話す意欲が半減するのである。アンケートの結果からも、「話すこと」については、話したいという思はあるが、話はあまり上手ではないと自分に自信がもてないでいる。「聞くこと」については、「話すこと」と比べてみるとほぼ同じ位聞くことも好きである。さらに詳しく調べてみると、「話すことが上手だ」と答えている児童は、「聞くことも上手だ」と答えている。問題は、「話すことはあまり上手ではない」と答えている児童が「聞くことはあまり上手ではない」、または「上手ではない」と答えていることである。児童は、話すことは大事だと分っているが「恥ずかしい」「失敗したくない」「上手に話さなければ」という気持ちが先走り、話すことに気後れするだけで話の内容や話し方の工夫には結びつかず関心が薄いようである。

(3) 指導観

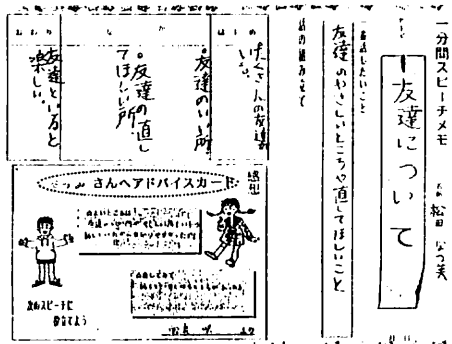
児童は、自分の身の回りの出来事に発見や感動を覚えると、それをだれかに伝えたいという思いや願いをもつものである。また、聞き手に自分の話したいことを受け止めてもらうことによって伝えることのよさを味わう事ができるものである。

児童の話したいという思いや願いを達成させるためには、話す力をつけ、一人一人が自信を持って話すことができるように場を多く設定する必要がある。そこで、グループ学習を取り入れ、自分たちの生活の中から話題をみつけさせ、話の内容を話し合うことで自分の話す中心は何なのかを意識づけさせる。全員が発表をしたり、感想や質問したり、評価したりする機会を増やすことで、自分たちの身近な問題について話すことへの関心が高まり、学級内の諸問題や調べたことなどについて発表し、伝え合うことの楽しさを実感する活動にしたい。

3 単元目標

- ① 身近なことから題材を選定することができる。 (1) ア
- ② 話の中心が明確になるように筋道を立てて話すことができる。 (1)
- ③ 話の中心に気を付けて聞き質問や意見を言ったり、自分の感想をまとめたりできる。 (1) イ
- ④ その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すことができる。 言語事項 (1) ア (ア)

4 指導計画 「伝えよう 自分の思い」(8時間)

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1 話すことをみつけよう ・印象的な出来事、学級内の何とかしなければならぬと思っていることを自由に出し合う。 ・スピーチとしてみんなの前で発表することを確認する。	・スピーチを行うための意欲づくり。 ・自分の考えが何かをとらえさせ、話の中心を明確にさせる。 ◇「話す」題材見つけが困難な児童への手立て ・グループ内の話し合いを持たせる。 (意欲喚起) ・相手意識、目的意識をしっかり持たせた上で話題を求めるようにさせる。
2	2 話すことを整理しよう ・話すことをどのように整理すればよいか考えてスピーチメモを作る。 ・スピーチメモをもとに話す練習をする。  写真1 グループで話す練習をしている様子  図1 スピーチメモとアドバイスカード	・話の中心を考えながらメモを作成させる。 ・スピーチをより分りやすくするため資料を集め、活用させる。 ◇スピーチメモが文章になる児童への手立て ・発表原稿から要点の部分を書き抜く。 ◇話すことを書き出せない児童への手立て ・付箋紙に話したいことを箇条書きさせる。 ・自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考えさせる。 ・適切な音量や速さで話す事に気を付けさせて練習させる。 ◇音量や速さが気にならない児童への手立て ・聞き取りにくくなったり、速くなったりしたとき話を止めてアドバイスを入れる。 ・1対1で話す練習をする。 ・録音した自分の声を聞き、適切な速さを考え練習する。 ◇話すことが苦手な児童 ・発表原稿を読み上げさせる。
4 本時 4/4	3 発表しよう ・自分の思いを相手に分りやすくスピーチする。 ・状況や目的に応じた適切な音量や速さで話す。	・相手によく分るように工夫して話したり、発表の内容や発表の仕方を聞いたりしてよさを知る。
1	4 発表をふりかえろう ・友達からのアドバイスや録画、録音等からよさ、改善点を知り次のスピーチに生かす工夫をする。	・アドバイスカードをもとに次のスピーチに生かしていこうとする意欲を持たせる。

5 本時の指導計画 (7/8時間)

(1) 本時の指導目標

- ・話したいことの中心がみんなに分るように話すことができる。 (1) ア
- ・話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめることができる。 (1) イ

(2) 授業の仮説

- ① 話の内容をつかみ準備することができれば、適切な声量、速さで話す事ができるであろう。
- ② 要点などをメモに取りながら話を聞くと、自分の考えと相手の考えを比べることができ、感想交流ができるであろう。

(3) 展開

時間	学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価 項 目
導 入	1 学習のねらいを確認する。 ・思いが伝わるように話そう ・自分の考えと比べながら感想を持とう。	・筋道を立てた分りやすい話し方や、主体的な聞き方を意識できるように、話すときや聞くときのめあてを確認する	
(10)	2 スピーチの練習をしよう。 ・グループ練習をする。 ・修正があれば付け加える。	・個別練習だけでなく、グループ練習なども必要に応じて組み合わせることができるよう働きかける。 ・教師も聞き手の一人になって練習を支援する。	・進んで練習することができたか。 (意欲・関心)
展 開	3 スピーチをしよう。 ・自分の思いが聞き手に伝わるように話す。 ・話し手のよさや工夫をみつめながら聞く。	・一人の発表者が終わったら感想を述べることを確認する。 ・友達のよさや自分のさらに工夫すべき点に目を向けることができるよう働きかける。	・話の中心が分るように、筋道を立てて話すことができる。(話す能力)
(30)	グループのテーマ 係り活動からのお願い ものを大切にしよう 給食のマナーは がんばっているよ ともだち	・発表者の録画を撮る。 	・状況に応じて適切な音量や速さで話すことができる。 (言語事項) ・自分の考えと比べながら聞き、感想を持つことができる。(聞く能力)
ま と め (5)	4 次時の学習の予告をする。	・よりよいスピーチをするために改善する事はないか、自分の発表の様子から考えていくことを知らせる。	・新たなよさを伸ばし、課題を立てようとする意欲を持つことができたか。 (関心・意欲)

6 授業の考察

(1) 授業仮説【話の内容をつかみ準備することができれば、適切な音量、速さで話すことができるであろう。】の考察

話し方については、グループの支援を受け、話す順序の入れ替えや声の大きさや速さ、正しい発音等に注意しながら話すよう心がけるようになってきた。

隣同士ペアになって「話す」ことを練習して評価し合う。何度となく声を出すことで自分の声の出し具合や発音、速さ等を意識するようになった。慣れたところでグループ、そして全体へと話の場を広げた。

表2 話すことについての到達の割合 (%)

項目	指導前	指導後
声量	38.6	75.4
速さ	28.6	72.9
態度	32.8	62.3
内容	35.7	69.7

その結果、表2の声量・速さは指導前と比較すると2倍ものポイントを上げている。また、内容を整理把握することで堂々とした態度へと変化する。話すことへの到達の割合も内容については34ポイントの増加、態度については、30ポイント近く増加している。

自信を持ってスピーチするためには、自分の伝えたいことが分かるように話の内容をしっかりと把握しておくことが必要になってくる。話の内容を把握することは聞き手に視線を向け、自分の思いを聞き手一人一人に届けることである。

しかし、6人の発表者共に話の内容については、大筋はつかんでいるものの原稿を「話す」のではなく「読む」になってしまった。発表メモの活用の仕方と練習をする時間が不十分であったためである。授業後の自己評価から、「原稿をみなくても話せたけど前にでたら緊張して原稿を読んだ。」「はじめのところは覚えていたけど。」という記述がみられた。

話の順序が前後したり、たくさんのことを話したいために話がつながらないということがあったりしたが、発表原稿をグループで聞き合い手直しをすることで自分の思いを分かりやすく伝えることができただけでなく、聞き手に対して受けて答えるという教師の密かな意図するところまで学び合うことができた。

抽出児、A君はみんなの前に出て話することに抵抗を感じ、教師がそばにぴったり寄り添っていないと黙り込んでしまう児童であった。が、スピーチの形態を、隣同士→感想交流、グループ→感想交流という活動を繰り返すことで全体の場で話すことができたことは評価したい。児童全体の3分の1は話す技能、態度とも自己の効果を発揮できなかったが、「話すことが上手になった気がする。」「今度は調べたことをみんなに知らせたい。」という声も聞こえた。

(2) 授業仮説【要点などをメモに取りながら聞くと、自分の考えと相手の考えを比べることができ、感想交流ができるであろう】の考察

表3 聞くことについての到達の割合 (%)

聞き取りについては30ポイント近く増加していることから、これまで、ぼんやり話を聞いていた児童や聞きっぱなしの多かった児童もメモを取り相手のよさを伝えるという目的意識をもたせることによって、友達の思いはどこにあるのか、よさは何だろうとしっかり聞くようになった。児童の聞き取り方も話の内容に分からない

項目	指導前	指導後
聞き取り	34.3	63.9
メモを取る	8.6	85.7
感想を伝える	28.6	62.9

ことがあると、質問や聞き直しをするようになった。これは、自分の考えや調べたことと比べながら聞いていることになり、相手の立場も考えながら聞いていることだと考えられる。

中学年の言語活動例の中に「要点などをメモに取りながら聞くこと」とあるが、メモを取ることに集中し、要点の聞き落しがあり聞きながらという活動が、学級の実態にそぐわないので、話を聞いた後メモを取るという活動をさせた。メモを取る時間を保障することで聞き取った要点を書き残し、それをもとに話し合いや、感想交流のなかで活用できるようになった。スピーチするための原稿メモの活用はまだ定着するには時間を要する。しかし、聞くことについての到達の割合のメモを取ることにについては77.1ポイントととても高い増加である。

「話す」ことはその場から消えてしまうので、すぐに自己評価や相互評価させることは大切である。ふりかえろうカード（自己評価）やアドバイスカード（相互評価）を活用することによって、よりよい話の仕方を確認し、次の機会に生かしていこうとする学び合いの場になるとともに、話すことへの意識が高まり、自信へとつながっていった。

感想交流のアドバイスからも変化がみられる。「大きな声でよかった。」「速さがちょうどよかった。」という簡単なよさの伝え合いから、適切な音量や速さがより具体的に伝わるような言葉に置き換えて「はっきりと後ろの方まで聞こえると思います。」「大事なところをちょうどいい速さで話すと思います。」「悪かったところを直して協力します。」のようにアドバイスを話し手に伝えるようになり、さらに、話の内容を受けて共感したことや、話の解決のヒントを考えて伝え合うようにと変化していった。身近なことに関心を向け、話の内容を整え、相手に自分の思いを伝えるための工夫ができるようになってきている。

「次のスピーチでは困っていることをみんなに相談してみたい。」「早口で話すからゆっくり話す練習をしたい。」という意欲の高まりにつながっていった。

V 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 話し手、聞き手相互が励ましたり支え合ったりする評価を行うことで、話す力・聞く力ともに高まりがでてきた。
- (2) 話すこと・聞くことは内容、表情とともに豊かになり、話し手と聞き手相互のやりとりの中で話に広がりがでてきた。
- (3) 児童の身近な生活の中から話題や問題点を取り上げたため、児童の伝えたい、分かってほしいという思いや願いも膨らみ、話し方に工夫しようという意欲がみられるようになった。
- (4) スピーチをする形態を、段階的な指導することによって、全体の中で自信を持ってスピーチすることができた。

2 今後の課題

- (1) 大切なことをメモに取ることができるような手立てをしてきたが、年間を通した継続的な指導の必要がある。
- (2) 異学年交流を通して「話すこと・聞くこと」の活動の場を広げていきたい。
- (3) 他教科と関連づけた、「話すこと」「聞くこと」言語活動例を位置づけた年間指導計画の作成

〈主な参考文献〉

小森 茂 編集	『新小学校教育課程講座 国語』	ぎょうせい	1999 年
小森 茂・本堂 寛	『新しい教育課程と学習活動の実例 国語』	東洋館出版社	1999 年
小森 茂・相澤秀夫・田中孝一 編著	『新国語科「言語活動例」の具体化 ① スピーチ・対話の学習』	明治図書	1999 年
小森 茂・甲斐睦朗 編著	『小学校 学習指導要領の展開 国語科編』	明治図書	1999 年